

報告書

2022 年 8 月 30 日

所属	山スクール トレッキング 2	氏名	YT
----	----------------	----	----

(1) 概要

日時	2022/8/28	場所	六甲山(赤子谷佐俣～六甲縦走路～赤子谷右俣)
テーマ	沢歩き、読図		
講師	氷見講師、阿麻橋講師、古谷講師		
目的	沢歩き、読図(実地と検証)		

(2) 報告事項

講習内容&所感

GPSで自分のルートのログをとり、登山を開始した。地形図を手を持ち、ある程度進むと赤ペンで自分の歩いたルートを地形図に書き込んでいった。要所要所で、自分の書き込んだルートとGPSのログを見比べながら、進んでいった。だいたいのルートはあっても、実際、ここだと思ふ地点より進んでいたり、進んでいなかったりした。明確な登山道と違い、今回のような谷道では、読図が難しいかを思い知らされた。ルート上、あきらかに目印となる地点(送電線と交差する地点)などがあると、重要な手掛かりになることを実感した。谷が2つ交わる地点は比較的、現在地を確定しやすかった。地形図で確認すべき場所は、尾根ではなく、谷であることも学んだ。また、ゴルジュは地形図上、等高線がつまった地形で表示されていることも実際のルートで確認できた。ルート上で、コンパスで谷の角度の測り角度を出し、その角度を頼りに地形図上でどの谷かを判断し現在地を見極める方法を教わった。地形図の表記を手掛かりにしてしまったので、あるはずの表記がなかったして、余計に混乱したように思う。ついつい、地形図に記載されている人工物や目印を頼りにしてしまいがちだったことを反省した。講師の方がおっしゃったように、地形で現時点を総合判断することが重要だと思った。また、標高差があまりない場所では、実際S字のように進んでいるルートも、地形図では表記されていないことも多く、判断を誤る原因となったと思う。どれくらいの標高差があれば、地形図にどのようにあらわされるかという感覚も経験でしか培えないと思った。地形図を何度か回転したい衝動にかられなんとかどまったが、今後もこの習慣を癖づけていきたい。知識として、山頂からみて右側が右俣、左側となり、川の上流から下流をみて右側が右岸、左側が左岸となることも学んだ。

全体を振り返って

読図がいかに難しいを思い知らされた。地形図で尾根と谷を見分けることが私にとっては難しく、わかったつもりになっていても、ふと尾根と谷を見間違えたり、どんな地形なのか想像できないことも多々あり、地形図を立体的にとらえられていないことを痛感した。早道はないのかもしれないが概略図を書いたりして、訓練したいと思う。地形図が立体的に見えてくると、もっと読図が楽しくなるのかなと感じた。